2005.5.27
防災計画研究小委員会（文責：髙木）

「防災計画研究小委員会」活動方針

【設立趣旨】

1995年1月17日の阪神・淡路大震災から10年の月日が経った。この間にも，都市型水害対策の必要性を認識させた2000年9月の東海豪雨災害をはじめ，多くの自然災害が発生し続けている。特に，2004年には日本全国各地で台風による洪水・土砂災害が発生するとともに，10月23日には新潟県中越地震が発生，12月26日にはスマトラ島西方沖地震による津波災害が発生し，20万人を越える尊い命が失われ，多大な経済損失が発生している。

災害は地震や台風などの自然現象を引き金とするが，それが被害を引き起こす過程には人間社会の複雑な営みが介在している。したがって，災害を単に自然現象として捉えるのではなく，人間社会の中で発生する社会経済現象として捉え，災害発生直後や復興期だけでなく，平常時において実行すべき災害対応を計画論的視点から分析し，次の災害に備えていく必要がある。特に近年，災害の社会・経済的な側面の重要性が認識され，かつ，災害に対する都市・地域システムとしてのパフォーマンス評価，災害からの復旧・復興計画など，防災研究に関して土木計画学分野に対する社会の期待は益々高まっており，これに応えていかなければならない。

このような状況の中，土木計画学研究委員会ではかねてより防災研究を個々に行ってきたが，阪神・淡路大震災を契機として社会的要請が非常に高まり，防災研究に対する組織的な取り組みがなされるようになった。その後，この活動は災害リスクマネジメント研究小委員会に引き継がれ，２期間に亘って研究活動が行われた結果，いくつかの研究成果を挙げ，その社会還元にも努めてきた。本研究小委員会は，この研究小委員会を引き継ぎ，これらの成果に立脚した上で，新たなる展開を含めた研究を遂行し，防災計画・災害対応計画に積極的に寄与していくことを目的とする。

【研究内容と活動体制】

本研究小委員会では，平常時，並びに災害復興過程における社会経済システムを調査し，そこから得られる貴重な教訓やデータ・情報を分析し，防災対策に活かしていくための方法や手順等に関する総合的検討を行うものである。このような防災研究を奨励し，組織的・系統的な取り組みを実施するためには，平常時から広く災害に関する情報を取り込み，研究上の課題を継続的に発見し対応するとともに，その成果を社会に還元するための組織的な取り組みが不可欠である。このような認識の下に，本研究小委員会では，以下に示す４つの研究グループを組織する。

①地域防災力研究グループ（片田代表，多々納幹事）

今わが国の防災に求められることは、住民が自発的な行動として、自助や共助に関わる防災行動を積極的に行うことであり、それにより地域防災力を高めることである。本研究グループでは、地域（住民、自治体）と共に地域防災力の向上策に関わる研究（Social Co-learning）を全国各地で推進し、そこで得られた知見を地域に還元するとともに、その共有化を図ることを通じて、わが国の地域防災力の向上を目指す。

②情報システム研究グループ（吉川代表，畑山幹事）

災害時の活動や防災に関わる検討をサポートするための情報システムのあり方を探る。災害情報の収集・管理・利用について、情報処理技術の開発・検討にとどまらず、技術を有効に活用するための体制づくりや、情報の発信・共有・公開の方法論までを対象とした研究を行い、現実の要求課題への対応力の高い枠組みを提案する。

③防災都市計画研究グループ（塚口代表，谷口幹事）

都市計画は、言うまでもなく従来から防災的視点を持って作成されてきたが、必ずしも十分であったとは言えない。そこで、本研究グループでは広く参加者を募り、防災機能の向上という視点から、種々の局面における都市計画に関わる技術、政策、考え方について検討することにしたい。なお、COE プログラム「文化遺産を核とした歴史都市の防災研究」(立命館大学)では一般市街地と文化遺産を一体的に災害から守るための研究が行われているから、これらとも連携しながら研究を進めていく。

④防災基礎論研究グループ（高木代表，横松幹事）

若手研究者（学生も含む）を中心に，他の研究グループと情報交換しながらも，各自の自由な発想に基づいて防災に関する方法論，計画論，プロセス論等に関する基礎研究を行う。なお，「リスクマネジメント研究小委員会」とも連携して定期的に研究会を開催し，活発な議論を通じて有用な成果の獲得を目指す。

小委員会メンバーは，研究グループのうち，一つあるいは複数に所属し，調査研究活動に従事するものとする。

このような体制で研究進めるために，全体ミーティング，個別グループミーティングを年間数回程度行い，共通に利用可能な理論・調査方法・解析方法やそのための基盤情報を整備した上で，シンポジウムやセミナーの開催，あるいは書籍の出版等を通じて広く社会に還元していくものとする。

【設立準備会メンバー】

委員長，幹事長，各研究グループの代表，幹事を務める予定メンバーを中心に準備を進めてきたが，研究小委員会の設立が決まり次第，改めてメンバーを公募したいと考えている。

■防災計画研究小委員会・設立準備会メンバー

村橋　正武（委員長）	立命館大学・理工学部・教授
高木　朗義（幹事長）	岐阜大学・工学部・助教授
片田　敏孝	群馬大学・工学部・教授
多々納　裕一	京都大学・防災研究所・教授
吉川　耕司	大阪産業大学・人間環境学部・教授
畑山　満則	京都大学・防災研究所・助教授
塚口　博司	立命館大学・理工学部・教授
谷口　守	岡山大学・環境理工学部・環境デザイン工学科・教授
横松　宗太	鳥取大学・工学部・助手
金井　昌信	群馬大学・工学部・助手

【これまでの活動報告（設立準備の経緯）】

第１回防災計画研究小委員会設立準備会
日　時：２００４年１１月２１日（日）　１５時～１７時
場　所：山口大学工学部Ｄ24 教室（第６会場・休憩室）Ｄ講義棟２階
出席者：村橋，片田，多々納，谷口，金井，髙木
議　事：①春大会企画セッションの応募を内容確認した。②岡田委員長からの３つの要求事項を確認した。③研究小委員会の活動方針について議論したが，まとまらなかった。各研究グループの活動方針は次回検討する。

第２回防災計画研究小委員会設立準備会
日　時：２００４年１２月２１日（火）　１３時～１６時
場　所：東京大学地震研究所　第３会議室
出席者：村橋，片田，多々納，谷口，吉川，畑山，横松，髙木
議　事：①研究小委員会の活動方針について議論し，方向性については概ね合意を得た。４つの研究グループを構成し，連携しながら調査研究を進めることとなった。各研究グループで活動方針を検討し，次回準備会にて議論する。

第３回防災計画研究小委員会設立準備会
日　時：２００５年３月７日（月）　１４時～１７時
場　所：京都大学防災研究所　国際交流セミナー室
議　事：研究グループの活動方針と連携について
出席者：村橋，片田，金井，多々納，塚口，吉川，畑山，横松，髙木
議　事：①他組織との連携について議論した。②各研究グループの活動方針について議論し，概ね全体の合意を得た。③構成メンバーについて検討した。④春大会企画セッションについて確認した。⑤ワンデーセミナーを実施することを決定した。

第４回防災計画研究小委員会設立準備会
日　時：２００５年５月１９日（木）　１４時～１８時
場　所：京都大学防災研究所　国際交流セミナー室
出席者：村橋，片田，金井，多々納，塚口，吉川，畑山，横松，髙木

議　事：①研究小委員会の活動方針の最終的なまとめ方について議論し，合意を得た。②研究グループ名は，地域防災力，情報システム，防災都市計画，防災基礎論とし，各研究グループの活動方針のまとめを報告することとなった。③春大会企画セッションの運営方法について確認した。④ワンデーセミナー「防災の経済分析」について確認した。⑤ワンデーセミナー「地域防災力の向上を目指してー災害調査の体系化と災害情報システム」について議論し，概要を固めた。⑥今後のスケジュールについて確認した。

【今後の活動計画】

6 月 4 日　16:00～18:00：第５回（最終）設立準備会　場所：広島大学工学部　A2 棟－3 階　344 号
予定議事：①幹事会，委員会の報告，②各研究Ｇのコアメンバー確定，③9/27 ワンデーセミナーの登壇者確定

6 月末：委員公募〆切

7 月初旬：各研究Ｇの顔合わせ，活動開始

9 月 7-9 日（全国大会）：第１回防災計画研究小委員会　場所：早稲田大学
予定議事：①各研究Ｇにおける具体的活動内容，スケジュール，メンバーなどの確認

9 月 27 日（ワンデーセミナー）：研究会メンバー全員集合

【ワンデーセミナーなどの開催予定①】

土木計画学ワンデーセミナー　４４　防災の経済分析－リスクマネジメントの施策と評価

開催日：2005 年 6 月 29 日［水］－30 日［木］

申込締切：2005 年 6 月 24 日［金］

災害は地震や台風などの自然現象を引き金とするが，それが被害を引き起こす過程には人間社会の複雑な営みが介在している。したがって，災害を単に自然現象として捉えるのではなく，人間社会の中で発生する社会経済現象として捉え，平常時はもちろん，災害発生直後～復興期において実行すべき災害対応を事前に計画論的視点から分析し，次の災害に備えていく必要がある。特に近年，災害の社会・経済的な側面の重要性が認識され，かつ，災害に対する都市・地域システムとしてのパフォーマンス評価，災害からの復旧・復興計画など，防災研究に関する社会の期待は益々高まっており，これに応えていかなければならない。本セミナーでは，2005 年 6 月初旬刊行予定の『防災の経済分析－リスクマネジメントの施策と評価』をテキストとして，リスク評価を研究や業務に取り入れてみたいと考えているハード系の実務者，研究者や大学院生を主な対象者として，防災対策を経済学的な視点から分析し，ソフト対策を含めた総合的な災害リスクマネジメントが検討できるようになることを目指している。

１．主　催―――土木学会　土木計画学研究委員会　防災計画研究小委員会，リスクマネジメント研究小委員会
２．日　時―――2005 年 6 月 29 日［水］13:00-18:00，30 日［木］10:00-17:00
３．場　所―――土木学会・講堂
４．申込締切――2005 年 6 月 24 日［金］
５．定　員―――120 名
６．参加費―――2,000 円
なお，当日受付にて，書籍『防災の経済分析－リスクマネジメントの施策と評価』（定価：3,885 円税込み）を特別価格（3,100 円税込み）にて販売いたします。
７．申込方法――氏名，所属，連絡先（電話番号，メールアドレス）を明記の上，岐阜大学高木朗義（ceip@cc.gifu-u.ac.jp）宛メールにてお申し込みください。なお，参加費は当日現金にてお支払いいただきますようお願い申し上げます。
８．問合先―――岐阜大学工学部社会基盤工学科　高木朗義
TEL:058-293-2445, FAX:058-230-1248
E-mail:ceip@cc.gifu-u.ac.jp
９．プログラム

6 月 29 日［水］：シンポジウム『防災経済分析の現状と展望』

13:00-13:05　開会挨拶　村橋正武（立命館大学／防災計画研究小委員会委員長）
13:05-13:15　趣旨説明　高木朗義（岐阜大学／防災計画研究小委員会幹事長）
13:15-14:15　防災経済分析のフロンティア　小林潔司（京都大学／リスクマネジメント研究小委員会委員長）

14:15-15:15　生命体としての地域　岡田憲夫（京都大学／土木計画学研究委員長）
15:15-15:30　休憩
15:30-17:00　パネルディスカッション
進行役：多々納裕一（京都大学）
パネラー：村橋正武，岡田憲夫，中嶋秀嗣（損保ジャパン・リスクマネジメント），兼森孝（応用アール・エム・エス），横松宗太（鳥取大学），高木朗義
17:30-18:30　交流会（軽くビールでも飲みながら・・・）　なお，参加費として 500 円を別途いただきます。
6 月 30 日［木］：レクチャー『防災経済分析の基礎と応用』
■ガイダンス
10:00-10:15　趣旨説明，一日目のまとめ，本の紹介　高木朗義
■基礎編
10:15-10:45　災害リスクとそのマネジメント　横松宗太
10:45-11:15　災害リスクアセスメント　兼森孝
11:15-11:45　災害リスクマネジメントの経済評価　高木朗義
11:45-13:00　昼食
13:00-13:30　災害リスクファイナンス　多々納裕一
13:30-14:00　リスクマネジメントシステム　中嶋秀嗣
14:00-14:10　休憩
■応用編
14:10-14:40　洪水リスクマネジメントの経済分析　湧川勝巳（国土技術研究センター）
14:40-15:10　応用一般均衡モデルを用いた経済被害推定　小池淳司（鳥取大学）
15:10-15:20　休憩
15:20-15:50　リダンダンシーの評価　谷本圭志（鳥取大学）
15:50-16:20　災害復興の経済評価　横松宗太
16:20-17:00　質疑応答（総括）　多々納裕一・高木朗義

【ワンデーセミナーなどの開催予定②】
土木計画学ワンデーセミナー　：地域防災力の向上を目指して－災害調査の体系化と災害情報システム
開催日：2005 年 9 月 27 日［火］

１．主　催―――土木学会　土木計画学研究委員会　防災計画研究小委員会
２．日　時―――2005 年 9 月 27 日［火］10:00-17:00
３．場　所―――土木学会・講堂
４．申込締切――未定
５．定　員―――120 名
６．参加費―――3,000 円（資料代込み）（予定）
７．申込方法――土木学会を通じて行う
８．問合先―――岐阜大学工学部社会基盤工学科　高木朗義
９．プログラム（案）
10:00-12:30
開催挨拶，趣旨説明(15min)：村橋委員長
① 地震災害調査の枠組みについて
② 円滑な救助・救援，復旧，復興のための平常時の取り組み（データの共有化など）
③ 災害時交通マネジメント
13:30-15:00
④ 情報システム研究グループからの活動紹介：吉川，畑山(30min)
⑤ 地域防災力研究グループからの活動紹介：片田(30min)
⑥ 自治体の事例紹介：人選中(30min)
15:30-17:00
⑦ 全体討議（パネルディスカッション）(90min)